

2026 年 6 月 3 日

学校法人三幸学園
札幌ブライダル&ホテル観光専門学校
校長 武田 政司 殿

学校関係者評価委員会
委員長 森 大輔

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 森 大輔 (株式会社ブライダルハウスチュチュ 常務取締役 執行役員)
- ② 松田 桃花 (第 10 期卒業生)
- ③ 川原 祥吾 (株式会社共立メンテナンス寮事業部 札幌支店)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 5 月 27 日 (会場 札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 303 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 札幌ブライダル&ホテル観光専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 熊木絢子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 森大輔

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできる No. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」、観光業のプロとして「お客様のニーズ」を知り、期待を超えるサービス（現場力、おもてなし力）で地域、日本の魅力を発信できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・教務方針として、担任と講師陣が強固なパートナーシップを構築。学校生活における規律を重んじつつ、業界の第一線で活躍するプロの視点から「仕事の魅力」を伝え続けることで、学生が将来への明確なビジョンを持ち、高い意欲で学びに打ち込める環境づくりを徹底して強化。

・生徒指導においては、学生の心の機微に寄り添う「勇気づけの関わり」を最優先事項とした。日々の授業や行事を通じ、小さな成功体験の一つひとつ着実に積み重ねることで、学生が「自分ならできる」という確信を持ち、自らの足で一步步前進できるよう、温かくかつ力強い指導を実践。

・学生の幸せな未来に直結する以下の3点において、さらなる高みを目指した。

A) 安心できる学びの継続(退学防止の徹底):退学率結果 2.7% 前比 1.6%減少

学生の変化をいち早く察知し、先手を打ったサポート体制(アンケート活用等)を構築した結果、退学率の大幅な低減(前年比 1.6%減)という確かな成果へと繋がった。

B) 教育の質の追求(学生・卒業生満足度の向上):卒業生満足度 3.69 前比 0.04 減少

各授業や行事での「成長実感」を最大化するため、教科担当と密に連携し、満足度の高い教育サービスの提供を追求し続けている。

C) 夢の実現の完遂(就職決定率の向上):就職決定率は年度内 97.9% 前比 0.4%減少

一人ひとりの状況に合わせたタイムリーな指導と学科別の就活スケジュール構築により、希望する業界への就職を全力でバックアップしている

・2026 年度は全ての学生が安心して学びを継続し、自らの可能性を最大限に引き出せる環境づくりを目指す。

1. 確かな学びの継続と、夢の実現(就職決定率 100%)への挑戦

学生一人ひとりの心の機微や状況の変化をいち早く察知する「先読みのサポート」を徹底。担任と講師陣がシームレスに情報を共有・連携する体制をさらに強固にし、組織一丸となって学生の成長を支え抜くことで、希望者全員の就職(就職決定率 100%)という結果を追求する。

2. 「成長実感」を最大化する教育プログラムの展開

卒業生満足度のさらなる向上を目指し、日々の授業や学校行事において学生が自らのステップアップをダイレクトに実感し、大きな達成感を得られる教育活動を展開。教科担当者との密な連携により、現場力を養う実践的な学びの質を深化させ、「この学校で学んでよかった」と心から誇れる教育環境を構築する

② 学校関係者評価委員会コメント

退学率の低下に一定の成果が見られた一方で、就職率向上に向けてさらなる取り組みが必要である。また、アンケートを活用し、生徒の状況変化の把握と適切な支援に努めている。(圃田さん:全学科について)

コロナ禍以降、退職者数は減少傾向にあり、直近 2 年間では 1 名となっている。離職防止に向け、新人研修に加え、2 年目・3 年目社員を対象とした継続的な研修を実施している。(松田委員:ウェディングプランナー科、ホテルエアトラベル科について)

年間約 300 名を採用しており、一定数の退職者は発生しているが、定着支援の一環として、年 1 回の同期会や各種研修を実施している。(川原委員:全学科について)

3 年定着率については改善傾向が見られるものの、引き続き向上が課題となっている。要因の一つとして勤務形態が挙げられ、特に土日勤務への適応が定着に影響していると考えられる。(森委員:全学科について)

同様に土日勤務は業界共通の課題であるが、ホテル業界では部署異動など多様なキャリア形成の機会があり、定着促進につながっている可能性がある。(松田委員:ウェディングプランナー科、ホテルエアトラベル科について)

近年の学生は、内定をもらったとしても職業への関心に加え、通学・通勤の利便性や希望勤務地など、自身のライフスタイルや価値観を重視して進路選択を行う傾向が見られる。(熊木さん:全学科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

1. 自己成長を加速させる「キャリアデザイン」と個別最適化された指導

「人材育成像&カリキュラム一覧」を活用し、2年間の学びを通じて身につくスキルや成長のプロセスを、キャリアデザインの授業を通じて明確に可視化。学生自らが目指すべき姿を具体的に描き、定期的な自己評価と目標設定を行うことで、主体的に学ぶ姿勢を育むことができた。また、これらのデータは個人面談等で教員と共有され、一人ひとりの到達度や個性に合わせた、きめ細やかで確かな進路指導の基盤としている。

2. 専門的知見に基づく包括的なメンタルヘルスケア体制

学生が安心して日々の学業に専念できるよう、昨年度に引き続き、専門のスクールカウンセラーとの連携体制を強化。心の健康を保つための周知や相談の促進を積極的に行うことで、学生が小さな悩みも一人で抱え込まず、プロフェッショナルの支援をタイムリーに受けられる「心理的安全性」の高い教育環境を構築している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

デジタルプラットフォーム(Microsoft Teams / Google Classroom)を基盤とした情報共有体制を構築し、業務の最適化を徹底。授業データや学生情報のシームレスな共有を実現することで、教職員間の連携スピードを飛躍的に高め、創出した時間を学生一人ひとりに向き合うタイムリーな指導や、教育コンテンツの更なる充実に充てている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

職員間では Teams、生徒向けには Google Classroom や SANKOGATE アプリを活用している。企業において活用されているシステムやコミュニケーションツールについて意見交換を行った。（園田さん：全学科について）

「メイクイット」というクラウドシステムを活用し、名簿管理や台帳管理を行っている。また、社員間のコミュニケーションには LINE WORKS を利用している。（森委員：全学科について）

社用携帯での連絡手段として LINE WORKS を活用しているほか、オンライン会議には Zoom を使用している。入社時には各種システムの利用方法について説明を実施している。また、顧客管理には Kintone を活用している。（川原委員：全学科について）

お客様とのオンライン対応に Zoom を活用しているほか、「つなぐ」を全社員向けのコミュニケーションツールとして運用している。近年はメールに代わりチャットの活用が進んでおり、基本的なマナーを共有しながら運用している。（松田委員：全学科について）

コミュニケーションツールの利便性が向上する一方で、業務時間外の連絡に対する受け止め方には世代間の違いも見られる。返信を急がない旨を伝えた場合でも、負担に感じるケースがあることから、運用ルールや配慮の重要性について意見が挙がった。（早坂さん：全学科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

現在の観光マーケットで真に求められる資質を養うため、一般社団法人札幌観光協会様との連携による特別研修を実施。「札幌の観光からみる求める人材像」をテーマに、最新の市場動向や現場のニーズを直接学ぶことで、地域観光の未来を担うプロとしての自覚と、実践的な視点を高めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題課題

・卒業生との繋がりをより強固にし、その多様な活躍を学校運営に活かすため、デジタルプラットフォーム「同窓会 LINK」や SNS 等の積極的な活用を通じた、新たなコミュニケーションネットワークの構築を推進。卒業生一人ひとりのキャリアに寄り添い、双方向の交流を深めることで、社会からの評価をタイムリーに教育の質向上へと還元する体制を強化していく

② 今後の改善方策

・卒業生ネットワークの質的向上

担任との密な信頼関係をベースに、卒業生の現況把握をさらに精緻化。「同窓会 LINK」の活用を促進し、卒業後も母校との接点を持ち続けることで、生涯にわたるキャリア形成を支援する仕組みを構築。

・学科別「就活最適化スケジュール」の構築

業界ごとに異なる採用動向に合わせ、学科単位でカスタマイズされた「就活スケジュール」を再編。タイムリーな就職ガイダンスの実施により、学生一人ひとりが最高の状態で夢の実現に挑めるサポート体制を確立。

③ 特記事項

・科学的アプローチによる退学防止の成果

学生の心の機微をいち早く察知するため、「hyperQU」等のアンケート調査や教員による多角的な視点（授業の様子アンケート）を導入。クラス全体の傾向や個人の心理状況を科学的に分析し、先手を打った個別対応やクラス運営を実践した結果、「困難を希望に変える」支援が実を結び、確かな退学防止成果へと繋げることができた。

・多様な学びに寄り添う「オンデマンド教育」の展開

オンデマンド科目を戦略的に導入したことで、通学に課題を抱える学生や多様な学習スタイルを持つ学生に対しても、「誰一人取り残さない」学びやすい教育環境を整備した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

中途退学者への支援体制不足

② 今後の改善方策

・同窓会 LINE を基盤とした「相互交流・情報発信ネットワーク」の構築

卒業生だけでなく、本校に縁のあった全ての方々との繋がりを維持するため、同窓会公式 LINE を活用した情報発信を強化。タイムリーな業界情報の提供や相互交流を促進することで、いつでも母校と繋がれる安心感を提供し、持続的なサポートが可能なコミュニティを構築。

・リカレント教育・自己啓発機会の提供によるキャリア形成支援

卒業後のさらなるスキルアップやキャリアチェンジを支援するため、自己啓発を目的としたセミナーや研修機会を定期的に実施。卒業後も学び、成長し続けられる環境を提供することで、社会の第一線で活躍し続けるための「生涯を通じたパートナー」としての役割を果たしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

生徒の小さな変化やサインを見逃さないことを大切にしている。生徒理解を深めるため、アンケート(hyper-QU)を活用しており、回答結果から生徒個人の状況やクラス全体の傾向を把握し、面談や指導に役立てている。(園田さん：全学科について)

卒業生の定着状況やキャリア形成を把握することの重要性について意見交換を行った。企業との継続的な情報共有は、教育活動の改善や学生支援の充実につながるとの意見があり、卒業後の成長過程を把握することは重要であるとの見解が示された。（熊木さん・森委員：全学科について）

また、海外では卒業生の進路状況やキャリア形成を継続的に調査・分析する取り組みが一般的であり、教育機関が卒業後の状況を把握することは有意義であるとの意見があった。（森委員：全学科について）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

・学生がプロとしての自覚を持ち、質の高い技術を習得できるよう、実習施設および教室の全面リニューアル。

対象施設：チャペル、バンケット、ドレス・ヘアメイク実習室、空港・ホテル実習室、および一般教室。現場の空気感をそのまま再現した最先端の環境を整えることで、日々の授業そのものがプロの現場へと直結し、学生の「現場力」と「おもてなしの心」を飛躍的に高める環境を実現。

・海外研修制度の実施により、グローバルな感性とホスピタリティを体得する機会を提供。

現場で自らを磨く「リゾートインターンシップ」を含む多彩なインターンシップを単位として認定（選択科目化）。学内での学びと社会での実践を融合させることで、学生一人ひとりが自らの適性を発見し、自信を持ってキャリアを切り拓いていける体制を強固にしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

今後も適正な運営を継続していく

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・本校の持つ専門的な施設や教育資源をより広く地域社会に開放し、貢献度を高めていくための仕組みづくりを推進。現在は特定の活動が中心となっているが、今後は一般の方々を対象とした公開講座の開設など、本校の知見をより多角的かつ継続的に地域へ還元できる体制の構築を目指す

② 今後の改善方策

・地域社会とのパートナーシップをさらに強化するため、本校の強み（ホスピタリティ、美容、観光等）を活かした新たな交流プログラムの企画・検討を加速させていく。地域の方々との双方向の関わりを通じて、学生にとっては実践力を磨く機会とし、地域にとっては学びと活力を提供する場となるような、付加価値の高い連携活動を具現化する。

③ 特記事項

・業様と密に連携し、高齢者施設でのボランティアなど、学生が培った専門技能を社会に役立てる活動を積極的に展開。これらの経験は、学生のホスピタリティ精神を醸成する貴重な実践の場となっている。

・次世代の観光・サービス業界を担う中学生に対し、施設見学や観光に関する特別授業を実施。プロの仕事の魅力を直接伝えることで、地域の子供たちの職業観を育むとともに、地域全体の教育力向上に寄与している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

ホテルは宿泊機能だけでなく、地域住民が交流する場としての役割も担っていると考えている。また、清掃活動については施設周辺にとどまらず地域全体を対象として実施しており、地域環境の維持・向上とともに、地域との良好な関係づくりにつながっている。（森委員：全学科について）

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・国外での学習成果への評価体制が整っていない環境であった

② 今後の改善方策

・留学生の学習効果进行评估していただける環境作りに日本語学校と情報交換を行う

③ 特記事項

・留学生の受け入れはホテルエアトラベル科で増加している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2025 年度は、学園のミッションである「人を活かし、困難を希望に変える」を指針に据え、学生一人ひとりの幸福な未来に直結する以下の 3 項目を最重点施策として学校運営に邁進してきた。

A) 安心できる学びの継続(退学者数の低減)

「誰一人取り残さない」指導を徹底した結果、退学率は前年比 1.6%減(2.7%)という確かな成果を収めることができた。これは、科学的なアンケート(hyperQU 等)の導入や、教職員が先手を打って学生の心の機微に寄り添う「伴走型支援」を実践した結果である。

A) 教育の質の追求(卒業生満足度の向上)

実習施設や教室の全面的な美装化を行い、プロの現場を再現した最高の環境で「本物の学び」を提供。学生が日々の授業や行事で「小さな成功体験」を積み重ね、自らの成長をダイレクトに実感できる教育活動を追求し続けている。

B) 夢の実現の完遂(就職決定率の向上)

就職決定率においては、変化する業界動向を見据えた新たな課題を明確に捉えることができた。これを「さらなる指導体制高度化の好機」と捉え、学科ごとの特性に合わせたタイムリーな個別指導と、より緻密な就活スケジュールの再構築に着手していく。

2025 年度に得た確かな手応えと課題を糧に、2026 年度も引き続きこれら 3 つの重点項目を軸に据え、教育活動を深化させていく。特に、「教科担当と担任の強固な連携」をさらに加速させ、学生がどの学科においても一貫して「高い達成感」と「自己肯定感」を得られる環境の構築を目指す。

就職決定率 100%という最高の結果を追求し、地域の魅力を世界へ発信できる「期待を超えるサービス(現場力、おもてなし力)」を備えた人材の育成に、組織一丸となって取り組んでいく。

最後に

卒業生の活躍は、教職員や在校生にとって大きな励みとなっている。今後も卒業生が職場や地域から信頼され、活躍している様子について情報共有をいただきながら、教育活動の充実に生かしていきたいとの意見があった。(早坂さん:全学科について)